

# 「大地震の復興に向けての原風景再興と新ビジネス創出」

## 特定非営利活動法人アグリコミュニティ千歳

### 1 活動の概要

住民・学生が主体に営農者や自治体・機関・団体と協働でハスカップの郷を創る。大地震復興に向けて、ハスカップの植栽と果実活用に取り組み、地域資源を増強。

また、研究・教育機関と協働で、地域の営農者要望に基づく地域発スマート農園を実用化。農業の魅力&効率を向上し、農園経営の持続を確保。

### 2 地域課題の背景

勇払原野は縄文時代前期からひとが生活を営み、不老長寿秘薬のハスカップが自生。ハスカップ栽培農業は、1970年頃に千歳市で始まり、ピーク時シェア50%で40戸・30haで栽培。手摘みかつ短い適期の収穫での採算性や高齢化が重なり、迫る栽培の危機。ハスカップは薬効・美容・健康の効用があり、苺・レモン・ブルーベリーより栄養価が高いが、まだ低い活用度。希少価値が強みで、観光資源にも最適。北海道胆振東部地震の被害で、農園経営の継続に深刻な課題が拡大。ハスカップの郷づくりに急ぎの取組みが必須。

また、重労働と勘&経験の農業の障壁を下げ、効率的な農業での増産増益、魅力的な農業にて担い手誘致を図るため、スマート農園導入への強まる要望。

さらに、“農&食と観光”の新たな農業の展開で、新ビジネスと都市圏関係人口の創出に繋ぐ。

### 3 活動方針

- (1) **誰が** 自治体・機関・団体や住民・学生との協働で、
- (2) **どこで** 千歳市・安平町・厚真町で、
- (3) **何を** 震災とコロナ禍の復興に向けて、勇払原野の原風景を想像する“ハスカップの郷”を創る。  
ハスカップの植栽とブランド品開発を、  
地域発スマート農園の実用化を、
- (4) **実施方法は** [3年計画 2020年度：協議・構想策定  
2021年度：研究・試行 2022年度：実行]
  - ❖住民・学生の抱く課題・要望や提案を結集  
資源・魅力をSDGs観点での発掘【通期勉強会】
  - ❖住民・学生による農業のボランティア活動  
地域協働で6次化農業 [農作業手伝い・商品開発]  
高齢者・障がい者が活躍する農業や住民・学生生徒  
が手伝う農業の環境を整備

- ❖最新技術を駆使の地域発スマート農園の実用化  
営農者の要望と公立千歳科学技術大学の知見を整合  
⇒ 地域発スマート農園構想の策定・実用化  
農園遠隔監視、匠の技学習 [整枝・剪定作業]  
産業技術総合研究所と農業ロボット協働研究  
⇒ 雑草駆除自律移動ロボットの実用化
- ❖スマート農園で農業の魅力&効率を向上  
農園経営の持続…増産増益、担い手誘致
- ❖都市圏の関係人口創出のモデルづくり  
観光・食&農家交流の体験型旅行形態にて多様な  
担い手“関係人口”の創出
- ❖住民・学生・農業研修生への啓発活動  
起業塾開講…起業意識醸成と経営ノウハウ伝授

### 4 主な活動

#### (1) ハスカップ摘み取り作業手伝い

ハスカップは収穫の適期が短く、かつ手作業での摘み取りを行う必要があり、収穫作業には多くの人手を要する。また、営農者の高齢化により、作業効率が低下する実態が重なる。そこで、学生・教員・住民が参加のボランティア活動による農園のサポートに継続して取り組み、収穫量の増大に貢献する。効用が高いハスカップ果実の需要促進、及び農園の収益改善に、この活動を通して寄与する。



農作業の適期にマッチが必須であり、この適期が気候により変動。摘み取り作業への参加者の都合と、摘み取り最適日との合致が課題である。

#### (2) 講演会【対話型勉強会】の開催

『勇払原野の原風景再興と新ビジネスの創出をめざして』をテーマに、オープンサイエンスパーク千歳 [地域社会の対話の場] や北海道大学総合博物館バイオミメティクス市民セミナー [環境・農業・経済] で講演を実施。



さらに、自治体にて説明会を開催。コロナ禍では、オンライン講演を主体に実施。

### (3) 地域発スマート農園構想の策定・実用化

営農者の要望と公立千歳科学技術大学の知見を整合して、地域発スマート農園構想を策定した。また、公立千歳科学技術大学と協働研究中の農園遠隔監視、及び産業技術総合研究所が研究開発を進める雑草駆除自律移動ロボットなどの実用化への方針を決めた。



自律移動ロボット技術を用いた半自走式草刈機

労力を要する草刈作業の自動化、さらに収穫適期が短く人手を要する摘み取りの効率化が永年の課題である。雑草駆除自律移動ロボットと農園遠隔監視の実用化にまずは取り組む。

スマート農業の実用化には、地域では解決困難な課題が多く、国の研究機関や企業と協業が必須。巨大組織を動かす提案に知恵を絞り、かつ熱意あるアプローチが肝要と考え、道を拓く行動をした。著名な国の研究機関の幹部の方が、小規模な当法人の提案に耳を傾けていただく。営農者の要望が強い雑草駆除自律移動ロボットの導入に繋ぐ。今後のスマート農園事業を展開する道を拓く。産業技術総合研究所・公立千歳科学技術大学・アグリコミュニティ千歳で共同研究の合意を当法人が取りまとめた。

### (4) 自治体への提案と状況・課題のヒアリング

大地震の復興に向けての原風景再興と新ビジネス創出の活動を説明し、ボランティア活動を提案。また、自治体の状況や課題のヒアリングを行う。ハスカップ農園の共通課題は高齢化と採算性での農園経営の持続。

千歳市では、ハスカップ植栽地の拡張は、環境再興及び収穫量増大のために有効。高齢化・後継者不足と収益面の課題により、農園が大幅に減少。

安平町では、震災による生活面や精神的な影響への支援に優先して取り組む方針。

厚真町では、資金力がある大規模農園は、規模縮小で経営を繋ぐ。しかし、小規模農園は経営危機である。特に、高齢営農者の農園は再建の目途に苦慮し、廃業の危機を抱える。



自治体・関係機関・団体との協働で、被災者に役立つ地道な活動を継続する。

### (5) 都市圏の関係人口創出のモデルづくり

都市型農園地区に適する川崎市麻生区で“関係人口”創出のモデルづくりに取り組む。この地域は歴史的に農業に関係が深い。また、近隣には大学が多く、若者が多数で、地域連携活動に積極的。

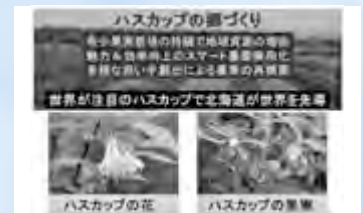
首都圏でハスカップ栽培を試行。開花や結実が胆振東部地域に比べ約2ヶ月早い。食味に差異はないが、高温多湿な首都圏での栽培は課題が多い。

観光と食を農家交流に結び付ける体験型旅行形態で、多様な担い手となる“関係人口”創出を図る構想をまとめた。受入れ農家が旅費を負担し、旅行者が労働力を提供する案を具体化する。自治体の助成金制度や航空会社などの支援も必要と考え、その折衝にも取り組む。

### 5 今後の展開

世界が注目のハスカップは、米国やカナダで栽培面積が増加。サスカチュワン大学〔カナダ〕で栽培や育種の研究に組み、果実収穫が容易な育種の研究も急速に進む。北海道が世界市場を先導には、収量増大と収益改善が急務である。食と観光を北海道の強みとして、“世界の北海道”をめざす長期戦略に貢献する。

ハスカップの産業規模は現在必ずしも大きくないが、希少価値が強みで、高付加価値なブランド品になる可能性が高い。ハスカップは薬効・美容・健康の効用があり、



健康志向&高品質な保健機能食品となる。可憐な花も魅力的で、摘み取り&加工の体験農園などの観光資源にも最適である。“食”・“観光”を戦略的産業とする北海道の重要な資源である。米国・カナダより先行する北海道が、市場を先導する優位な位置を固めるチャンスは今である。“世界の北海道”をめざすため、知名度向上の効果があり、“世界に目を向けた農産品”として期待できる。

さらに、摘み取り作業の効率化は永年の課題で、長期間を要する超難題である。実現方式の考察から進める計画である。ロボット化方式の見極めを優先し、樹形技術・育種などの幅広い領域での研究開発が必須である。また、地域に調和する協働活動で、地域農業の再構築に組み、担い手拡充の活動に注力する。ひとの輪&和で、“ひとが輝く地域社会”をめざす。